

稲WCS生産に係る課題と収支概算 (耕種側)

農業水産振興課

R6小型稲WCSの取り組み

- WCS用稲の生産を耕種側が行い、刈取調整は関連機械を所有する畜産農家が行う。
また、畜産堆肥の投入を畜産農家が耕種農家の依頼を受けて行う。

メリット

- ・刈取にかかる手間が不要
- ・国の助成金の対象

R6小型稲WCSの取り組み

○食用米栽培との違い・留意点

- ・刈り取りを除く作業は食用米と同様
- ・落水の時期については注意が必要
- ・雑草は飼料にならないため防除が必要
(特に広葉雑草)
- ・食用米としての販売はできない
- ・コンタミ回避のため、専用品種を入れにくい
- ・ロール代は刈取作業委託費と相殺するなら、
収入は助成金のみであり、WCSの収量に
左右されず一定

WCSの刈り取りを委託した場合

○主食用水稻:16ha、稲WCS : 4haの経営を想定 主食用米収量489kg/10a

(10aあたり、千円)

	主食用米価格 (円/60kg)		収入	経費	差引 (所得)
主食用米	13,140	昨年度試算額 H30～R4 JA米買取価格	107	98	9
	15,000	稲WCSの所得と同等と なる米買取価格	122	98	24※
稲WCS			93	69	24

- ・ 稲WCSの収入は戦略作物助成金80,000円 + 産地交付金耕畜連携助成金13,000円
- ・ ロール代と刈取作業委託費を相殺する

※主食用米価格が15,000円/60kgとした場合、同等の所得となる。なお、R6年度のJA米仮渡価格は17,000円/60kgであり、その場合の所得は41千円。

WCSの刈り取りを委託した場合

○WCSの収量から見ると

- ・ 10aあたり1,050kgの収量だと、大型ロールのJAへの売価で換算して12,700円
→これを刈取作業委託費と相殺する

参考：堆肥について

- ・ わらをすき込まないので、畜産堆肥の投入が必要
- ・ 耕畜連携助成金13,000円/10aを受け取り、堆肥の投入を畜産農家に12,000円/10aで委託する

○仮に、小規模な稲作農家が、WCS稲栽培に取り組む場合

- ・ 収穫以降の機械が必要無くなり、機械の減価償却費、修繕費や雇用労賃が圧縮されるため、食用米栽培に比べて赤字幅が小さくなる

類型名 集落営農組織 水稻+WCS (収穫外部委託)

10a当たり経営収支

食用米価格が15,000円/60kgの場合

		単位	品目・作型別		
			主食用米 (ヒノヒカリ・あきたこまち)	WCS	備考
栽培面積		a	1,600	400	
延べ面積		a	1,600	400	
主産物粗収益		円	122,250	0	489kg/10a、250円/kg
副産物粗収益		円	0	0	
その他収益		円	0	93,000	戦略作物(80,000)+耕畜連携(13,000)
粗収益合計		円	122,250	93,000	
変動費	種苗費	円	1,166	250	
	肥料費	円	15,555	18,238	ケイ酸資材散布増により、WCSが高い
	農薬剤費	円	14,081	8,327	カメムシ防除がない分、WCSは安い
	諸材料費	円	212	212	
	光熱動力費	円	3,064	1,795	
	小農具費	円	250	250	
	出荷販売経費	円	2,208	0	
	出荷手数料	円	0	0	
	共済掛け金	円	821	0	
	雇用労賃	円	10,450	5,250	1,500円/h
	支払地代	円	0	0	
	その他変動費	円	0	12,000	堆肥散布代
	変動費計		円	47,807	46,322
固定費	機械	減価償却費	円	39,023	17,134
		修繕費	円	10,802	4,673
	施設	減価償却費	円	859	359
		修繕費	円	222	72
	大植物	減価償却費	円	0	0
	減価償却費計		円	39,881	17,493
	修繕費計		円	11,023	4,745
固定費計		円	50,905	22,237	
経営費合計		円	98,712	68,559	
所得		円	23,538	24,441	
所得率		%	19.3%	26.3%	

水稻
 反収 489 kg/10a H30~R4五條市収穫量平均
 単価 250 円/kg 15,000円/60kg と試算
 (参考 219 円/kg H30~R4JA米買取価格)
 WCS
 収穫量 1,050 kg R6実証圃実績